# なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方に年4回のペースでお知らせする情報誌です。

VOL.57

発行 / 平成 25 年7月

新鮮な県産水産物が並ぶ福岡市中央卸売市場

調査情報
・海況情報 …… 2
・アレキサンドリウム　カテネラの発生について …… 2
・豊前海におけるシャコ資源の回復に向けて …… 3
・有明海におけるアサリの天然採苗試験 …… 3
研究情報
・豊前海におけるカキの食害対策 …… 4
なみなみニュース
・各地で初夏の漁村イベントが開催 …… 5
・市町への試験研究成果報告会を開催 …… 6
・野外学習会で児童がエツ稚魚を放流 …… 6
・竜宮城の乙姫様現る …… 7
研究員紹介
・研究部　技師　森　慎也 …… 7
普及だより
・福岡県有明海区研究連合会が夏期講習会を開催 …… 8
・【お知らせ】ふくおか農林漁業
新規就業セミナー・就業相談会を開催 …… 8

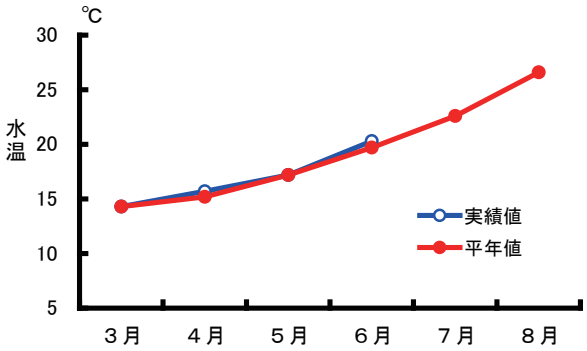
# 調査情報

## 海況情報

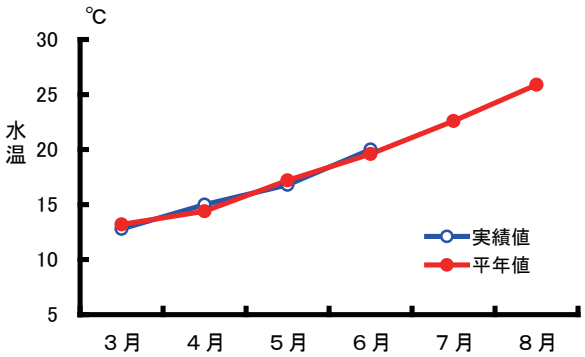
４～６月の表層水温は、筑前海の沖合域では、４、６月はやや高めで、５月が平年並みでした。沿岸域では、４月にやや高めで、その後は平年並みで推移しました。

有明海では、４月はやや低めでしたが、その後は平年並みで推移しました。

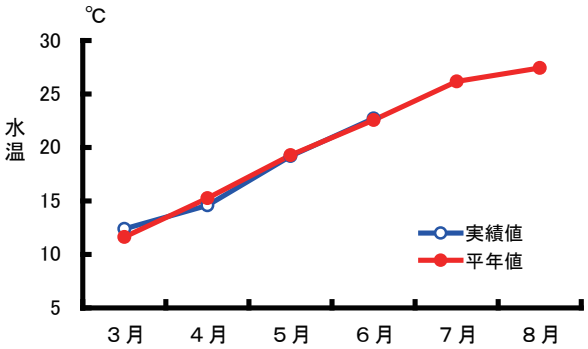
豊前海では、　４、６月はやや高めで、５月は平年並みでした。



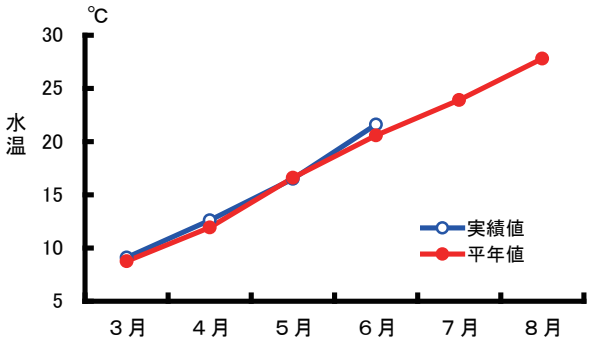

筑前海沖合域の表層水温




筑前海沿岸域の表層水温




有明海の表層水温




豊前海の表層水温

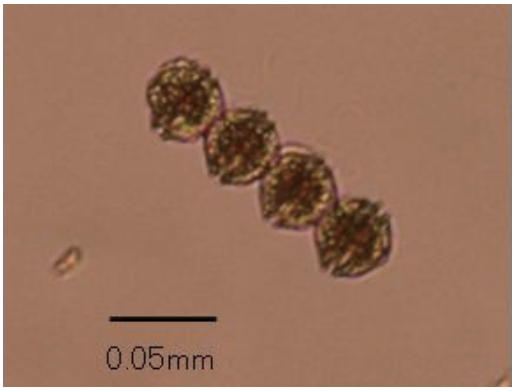
## アレキサンドリウム　カテネラの発生について

海水中の植物プランクトンの中には、食中毒の原因となる毒を持つものがあります。これらが多く発生すると、二枚貝がこれらを食べて毒が蓄積する場合があります。

このため、センターでは、貝毒プランクトンの発生状況などを定期的に調査しています。

25 年５月の調査において、福岡湾で貝毒プランクトンの一種であるアレキサンドリウム　カテネラを確認しました。今回は、海水１ｍｌあたり最高で８細胞と少量でしたが、このプランクトンが増殖し、１ｍｌあたり 500 細胞を超えると、貝が毒化する危険性があります。

センターでは、貝毒による健康被害が起こらないよう、引き続き、監視を続けていきます。




アレキサンドリウム　カテネラ

（研究部）

# 豊前海におけるシャコ資源の回復に向けて

海水シャワー装置

豊前海区では、シャコは重要な漁業資源です。

豊前海区小型底曳網漁業者協議会では、選別作業中の漁獲物の活力を高める海水シャワー装置を導入し、小さなシャコなど小型魚介類の再放流に取り組んできました。

しかしながら、シャコの漁獲状況は、16年度には１日１隻あたり約13kgの水揚げがありましたが、20年度以降は400ｇと大きく落ち込んでいます。

そこで、豊前海研究所では、シャコの資源管理を強化するため、現在の資源状況の中で、どのような管理方策が有効かを解析し、シャワー装置の活用と小型シャコの再放流により、親シャコの数が2.3倍になることなどを明らかにし、それらの結果を基に漁業者と協議を重ねてきました。　その結果、協議会では、小型シャコの再放流や産卵期の禁漁を決定し、さらに、この夏からは、漁労作業に支障がないよう作業性を高めた新たなシャワー装置を小型底びき網全船に導入し操業を行っています。

研究所では、これらの取組を支援するため、シャコの資源状況などを引き続き調査していきます。

（豊前海研究所）

# 有明海におけるアサリの天然採苗試験

広大な干潟を活用したアサリ天然採苗

有明海のアサリは重要な漁業資源であり、最近では、年間５千トンを超える水揚げもありました。しかし、昨年の九州北部豪雨の影響もあり、25年３月に実施した調査では推定資源量が371ｔに減少しています。

そこで、この減少したアサリ資源を増やすため、有明海の全ての漁協が今年度からアサリの天然採苗に取り組んでいます。

天然採苗は、５kgの砂利をネットに詰めた採苗器を干潟に設置するものです。

この採苗器は、（独）水産総合研究センターが開発したもので、安価で、簡便な作業で取り組める技術であること、また、広大な干潟を持つ有明海に適した方法でもあります。今後、追跡調査を行い、効果把握に取り組んでいきます。

（有明海研究所）

# 研究情報

## 豊前海におけるカキの食害対策

豊前海区では22年度に南部漁場において、カキの食害が初めて確認されました。その後、食害被害は北部漁場まで広がり、24年度には収穫量が平年の約７割になるという不作の一因ともなりました。

食害をもたらす原因種を解明するため、養殖筏に集まる魚類のビデオ撮影や胃内容物を分析した結果、原因はクロダイと特定されました。

また、食害を受けたカキを観察すると、殻高が４～５ｃｍ以下のものが多く、それ以上に成長すると食害を受けにくいことも判明しました。

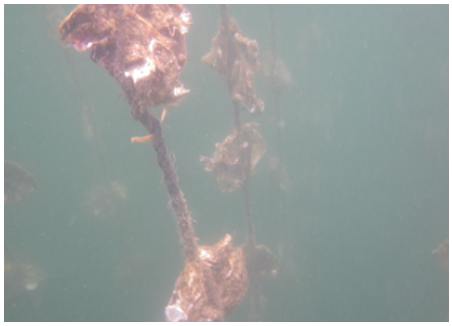
豊前海研究所では、この点に着目し、カキが小さい時期に食害を避けるための種々の試験を実施しました。

試験内容は、カキの垂下連を丸ごとカゴに入れて垂下する「カゴ試験区」、垂下連を束ねて水面近くに垂下する「束ね試験区」、カキ筏全体を網で覆ってしまう「囲い網試験区」の計３つの試験区を南部漁場の筏に設定し、通常垂下区（対照区）との比較を行いました。

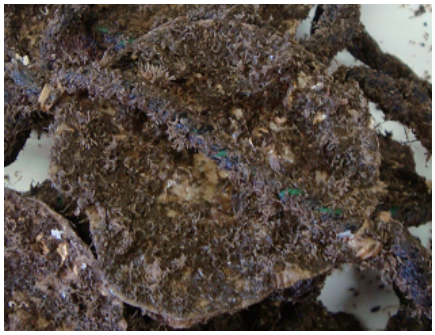
その結果、対照区では付着したカキの８％ほどしか残っていなかったのに対し、「カゴ区」では100％、「束ね区」では95％と高い生残が確認されました。また、「囲い網区」でも51％とやや低い値ながら、その効果が確認されました。

しかし、「カゴ区」では、カゴの購入費（１カゴ約400円）がかかることや、「囲い網区」では効果の割に労力を要することから、最も簡易で、コスト面や労働面で優れた束ね垂下方式を漁業者に推奨しています。

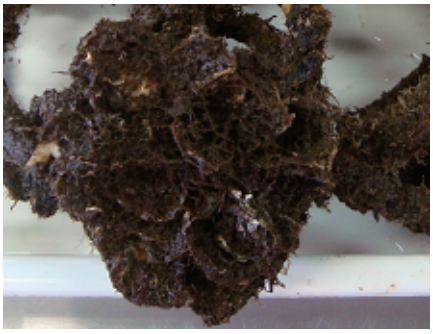
既に本年度から食害の多い南部漁場を中心に、多くの漁業者が本方法を取り入れており、これまでのところ食害は少なく、カキは順調に生育しています。



海水中のカキの垂下連（左：通常垂下、右：束ね垂下）



対照区
（カキ種がほとんど消失）



束ね試験区
（カキ種が生残）

食害防止試験の結果比較

（豊前海研究所）

# なみなみニュース

## 各地で初夏の漁村イベントが開催

漁業や漁村への理解を深めてもらおうと、各地でイベントが開催されました。

６月１～２日には、宗像市鐘崎漁港で、鐘崎漁師まつりが開催されました。このイベントでは、新鮮な魚介類の直売や漁師料理の提供、そして、大人気の魚のつかみ取り大会が行われました。

つかみ取り大会は、学年ごとに分かれて行われましたが、ある学年では参加者があまりに多く３回に分けて行われるなど、大いに盛り上がっていました。

６月 16 日には、福岡市西区西浦漁協で、西浦さかなまつりが開催されました。ここでも新鮮な魚介類の販売をはじめ、名物の鯛めしの販売、地引網体験が行われました。

地引網体験では、一生懸命引き揚げた網の中のキスやアジなどの魚をみて、子供たちの大きな歓声があがっていました。

鐘崎漁師まつり（左：メイン会場　右：魚のつかみ取り大会）

西浦さかな祭り（左：マダイなどの直売　右：地びき網体験）

# 市町への試験研究成果報告会を開催

水産海洋技術センターでは、水産資源の管理や漁場環境の保全、養殖業の推進などの試験研究に取り組んでいます。

これら試験研究の成果については、これまでも漁業関係者への説明や各種報告書などを通じて普及に努めていますが、より一層の普及を図るため、漁業現場に近い立場で水産振興に取り組まれている市町を対象に報告会を開催しています。

豊前海区では、25 年 5 月 21 日に報告会を開催し、養殖カキの食害対策やアサリ増殖装置の開発試験の状況、アサリの食害種であるナルトビエイの移動生態など、現在、豊前海区が抱える課題への対応について報告を行いました。

各市町とすでに連携して取り組んでいる課題もあり、活発な意見交換がなされました。

今後、他海区においても同様の報告会を開催する予定です。

豊前海研究所試験研究成果等報告会

# 野外学習会で児童がエツ稚魚を放流

エツは、有明海と、そこに流入する河川にのみ生息するとても珍しい魚です。筑後川下流域では、エツを地域資源と捉え、漁業はもちろん、観光業にも活用されています。

しかし、近年、エツの漁獲量は低迷しており、地域にとって欠かせないエツ資源を回復させるため、下筑後川漁協（久留米市）では、種苗放流など増殖に積極的に取り組んでいます。

さて、今年の種苗も順調に放流サイズに成長し、漁協では、放流に併せて、地域の小学校から児童らを招き、筑後川河畔でエツの野外学習会を開催しました。

学習会では、最初に漁業者が講師となり、エツの生態や漁業、そして、河川の環境を守る重要性を児童らに学習してもらい、その後、児童らがエツの稚魚を筑後川に放流しました。

稚魚を川に放しながら、「大きくなって、また、筑後川に帰ってきてね」と声をかける児童の姿が印象的でした。

約３cm に成長したエツ種苗

エツ野外学習会

エツ稚魚を放流する児童

## 竜宮城の乙姫様現る

５月下旬に今津湾でリュウグウノヒメを捕まえたとの情報がセンターに寄せられました。

こうした深海魚の捕獲情報は、全国各地でしばしば報告されています。

とはいえ、今回、捕獲されたリュウグウノヒメは、通常は水深数百ｍに生息しており、浅い海域に現れることはとても珍しい現象です。さらに、福岡湾では、６月に入ってからも別の場所での捕獲情報があり、珍しい現象が続きました。

浦島太郎が竜宮城で出会った乙姫様って、実はこの魚だった？

リュウグウノヒメ

追記

７月３日には、福津市でこちらも深海魚のサケガシラという魚が打ち上げられたそうです。

# 研究員紹介

## 研究部　技師　森　慎也

皆さま初めまして！！

25 年 4 月 1 日付で水産海洋技術センターに新規採用で配属になりました森　慎也と申します。

大学では、被覆網を用いたアサリの食害保護の研究をしていました。センターに入ってからも、今話題のアサリ育成装置「かぐや」の調査の一部を担ったり、今津のアサリの成熟度調査などで、またアサリと関われてうれしく思っています。

その他には、ウニ除去による藻場保全調査や海藻の採苗試験、アコヤガイのピース貝の飼育、ナマコの成熟度調査などの担当になり毎日が充実しています。やること全てが初めての経験で分からないことばかりですが、周りの先輩方の働く姿を見て日々精進していきたいと思います。

また、仕事で出張が多く、いろんな出張先でおいしいご飯屋さんに行くのが最近の楽しみです（笑）。

出身は柳川で、小さい頃ムツゴロウと戯れていました。趣味はダーツやボーリングや映画を観ることです。小さい頃からずっと剣道をしてます。調査など体力勝負ですが頑張っていきたいです。これからよろしくお願いします！

# 普及だより

## 福岡県有明海区研究連合会が夏期講習会を開催

有明海の若手ノリ生産者で組織される福岡県有明海区研究連合会が７月９日、10 日に第 51 回夏期講習会を開催しました。この夏期講習会はノリ養殖の技術向上と漁業者の懇親と結束を深める目的で昭和 38 年から半世紀にわたって毎年開催されており、今年も約 200 名が出席しました。

初日は、東京海洋大学濱田氏から、漁協運営のあり方と共販事業について、また、高崎経済大学久宗氏から安全で効率的な漁業労働について講演があり、参加者にとっては普段あまり意識してない分野の重要性について見直す機会となったようです。

夏期講習会

翌日は水産大学名誉教授鬼頭氏や海苔産業情報センター藤井氏らが、生産や流通の課題に今後どう向き合っていくべきかという視点で講演があり、会員との間で熱心な議論が交わされていました。

この夏期講習会が終わると、10 月の種付けに向けた準備が始まります。講習会終了後、会員の皆さんは気持ちを新たに会場を後にしていました。

## 【お知らせ】ふくおか農林漁業新規就業セミナー・就業相談会を開催

県では、25 年８月 11 日に福岡市天神で「ふくおか農林漁業新規就業セミナー・就業相談会」を開催します。

福岡で漁業に就業を希望する方に、県の漁業や求人状況などを紹介しています。

この相談会を通じて、まき網漁業や２そうごち網漁業への就業に繋がっています。

昨年度の相談会

日時　25 年８月 11 日（日）　13 時から 16 時 30 分まで
　　（受付は 12 時 30 分から 16 時まで）
会場　天神エルガーラ８階大ホール
　　（福岡市中央区天神１丁目４番２号）
内容　農林漁業の就職情報の提供及び個別相談
　　（申込み不要、入場無料）

＜編集発行＞福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
〒819－0165　福岡市西区今津1141番地1
TEL　092－806－5251　FAX　092－806－5223
センターホームページ　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/
携帯電話対応　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/